

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス フェリチタ		公表日		2025年 7月 24日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		本箱や手洗い場などを除外しても人数相当（一人当たり4㎡）以上のスペースを確保して、児童の活動スペースには物を置いていない。	物を増やさないためにはどうするか常に話し合っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	9		10人以下の児童に常時児童指導員3名と、プラス、児童発達支援管理責任者の計4人が支援にあたっている。	十分な人数であると思う。これ以上増やすと集団指導よりも個別の指導の時間が増えてしまい、活動の中で児童が子供同士で触れ合うことよりも児童が児童指導員に依存しがちになってしまうと思われる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		スペースを確保しながらもスペースを減らさない構造化を行っている。世田谷区はバリアフリー条例があるので、フェリチタでは条例に準じた適切な配慮と設備がなされている。	これ以上構造化すると細かい部分で全体に目が届かなくなる恐れがある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		・机や通路が活動しやすくレイアウトされており、トイレ・洗面台も一か所にまとめられて使いやすい。	毎日掃除と消毒は欠かさない。例えば児童がくしゃみを手で押さえた場合などにも必ず手洗いをするようになっていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		気持ちの落ち着かなくなった児童は相談室で落ち着く時間を設けてから個別に相談している。中学生は試験前に集中しやすい場所で試験勉強ができるように配慮している。	特に問題や課題はないと思われる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9		毎朝の打ち合わせ、児童が帰ってからの時間に目標設定と振り返りの時間を設けているが、その他の時間にも細かい振り返りを行っている。	専門性のある児童指導員を採用して指導に当たっているため非常勤の人数が多くなっている。そのため一堂には会えないので連絡は必ず行い、共通理解を図っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		評価表は全員の分を常勤の指導員と児童発達支援管理責任者が目を通し、保護者の評価と意見について話し合いをし、改善につなげている。	保護者の思い違いかと思われる記述も多々あるが、アンケートなので個別に説明するわけにはいかないとこどもがどかしい。別の機会にそれとなく説明している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・子ども達の常により良い内容になっている。	日常的に行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		9	・第三者の評価は行っていないが、定期的に社労士等に相談を行っている。	第三者には委託していないが、保護者の評価を大事に受け止め、改善に努めている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		・丁寧なアドバイスを受けている。	全体の研修は毎月行っている。個人の研修も希望や本人に合っていると思われるものを進めて勤務時間内で行ってもらっている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		もちろんしています。	これからもします。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		・作成されているように感じられる。 ・児童指導員が支援している児童の様子や、常勤の職員、非常勤の職員にも様子を聞きながら作成している。	子ども家庭庁・東京都の様式では足りないもので付け足している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		常に児童発達支援管理責任者と常勤の児童指導員が話し合い、非常勤に伝えている。実際の支援の場でも伝えている。	今後も行う。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		常勤の指導員は作成の時から話し合い、内容を把握している。非常勤の児童指導員にはその都度伝えている。	今後も行う。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		フォーマルなものほか、インフォーマルなもの（支援経過）を毎回記録している。	フォーマルなより細かいアセスメントを作成中である。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		本人支援、家族支援、移行支援、及び地域支援・地域連携のねらい及び支援内容を踏まえ子供の支援に必要な項目を適切に設定し、そのうえで具体的な支援内容を設定している。	今後も左記の様にを行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		チームで行っている。	今後も左記の様にを行う。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		・創作、クイズ、動画視聴等、様々なプログラムが提供されている。また、季節を感じられる活動も行われている。 ・常に新しい新鮮なプログラムを開発されている。	活動内容はチームで立案しているが内容は外部の専門的な講師にも依頼している。（法学博士・裏千家教授・薬剤師等。）
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		・良い状態で行われている。	個別指導と集団指導（10名）小集団指導（4から6名程度）を組み合わせで行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		・必ず打ち合わせをして内容、役割分担を確認し、チームで連携して支援を行っている。	今後も左記の様にを行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		・必ず打ち合わせをしている。また、当日不在の児童指導員にはあとから必ず伝えている。	今後も左記の様にを行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		・必ず取っている。支援の検証、改善につなげている。	今後も左記の様にを行う。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		・半年に一回必ず見直しを行っているが、日々の支援の中でたびたび見直し確認をしている。	今後も左記の様にを行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9		「日常生活の充実と自立支援のための活動」「多様な遊びや体験活動」「地域交流の活動」「子供が主体的に参画できる活動」の4つの基本活動を複数組み合わせ支援を行っている。	今後も左記の様にを行う。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		常に行っている。	今後も行う。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		している。	今後も行う。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		整えている。	今後も連携していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		・保護者を通して把握し、調整を行っている。	ほとんどがそれぞれ違う学校の違う学年が通っているため、保護者との調整が一番都合がよい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		5 (未記入4)	・対象者なし。	・今後対象者があれば行う。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		5 (未記入4)	・対象者なし。 ・まだ高校卒業生がいない。	・対象者がいれば行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9		・設けている。	・今後も行う。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9		・地域の中学校の茶道部の生徒達と茶道体験を通して交流の場を作っている。	・今後も行う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		5 (未記入4)	世田谷区自立支援協議会本部（第1回）議事録には目を通している。積極的に参加したいと思っている。	烏山支部に参加したいが、一番新しいお知らせで平成31年であるので、機能しているのかわからない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9		・毎回、連絡帳を通して密に連携を取れている。	今後も行っていく。

保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		行っている。	今後も行う。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		契約時に1時間かけて説明している。	今後も行う。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		そもそも契約前に詳しく話をし、確認したうえで契約、個別支援計画の作成を行っている。	今後も行う。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		一日の流れに沿った支援内容表示にしてわかりやすいようにしている。	今後も行う。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・個別に保護者と面談を実施し、きめ細やかに対応を行っている。	家族支援の時間だけでなく連絡帳や送迎時、電話やメールなど、相談を受けた場合には時間外にも相談支援を行っている。保護者からの申し出以外に、お困りの様子が見られた時にはこちらから支援を行っている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		・保護者会の開催は行っている。開催に先立ち、「相談したいこと、聞いてみたいこと」をあらかじめお聴きし、それに沿った話し合いを設けている。 ・兄弟同士で交流の場を設けることは、時間・場所・それぞれの家庭の考え方の違いから難しい。	・保護者会に関しては今後も企画する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	(未記入2)	・苦情はないが、質問等に対してはすぐに対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		・次の月の予定表で行事予定についてお知らせし、事後に関しては連絡帳にその時の様子、インスタグラムでもアップしている。	・今後も行う。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		・している。	・今後も行う。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		・している。	・している。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	6 (未記入1)	東京都の福結びで体験を受け入れようとしたところ、「世田谷区の男性の大学生」としか知らされず、ほかは個人情報ということで何も教えてもらえなかった。福結びがどのくらい責任を持ってくれるのか知らないが、あまりに無責任なのでお断りした。 地域に開かれたというのも聞こえがいいが、どんな人が来るかもわからないので危険管理上行えない。	・町会長さん、商店街の理事長など身元の確かな人は今後お招きして事業についてご理解を得る機会があればうれしい。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		・している。自事業所だけでなく、リトナード八幡山の消防訓練にも参加している。	・今後も行う。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		・BCPを策定し、毎月訓練を行っている。	・今後も行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		・服薬、てんかん発作については事前に確認している。	・昼食時の服薬者は無。てんかん発作のある児童もいない。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1 (未記入3)	・食事、飲み物の提供は行っていない。また、医師の指示による対応が必要な児童もいない。	・食事、飲み物の提供は行っていない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		・行っている。	・今後も行う。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		・行っている。	・今後も行う。

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		・している。	・今後も行う。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		・研修の機会、対応を行っている。	・今後も行う。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	(未記入5)	・やむを得ず身体拘束を行うことが必要な児童がいない。	・やむを得ず身体拘束を行うかどうかにあたる児童がいない。今後可能性のある児童が入所したらしかるべき記載を行う。